

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100090		
法人名	有限会社 ヴェントーズ		
事業所名	グループホーム ヴィエント		
所在地	矢板市片岡1174-2		
自己評価作成日	平成28年1月5日	評価結果市町村受理日	平成28年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成28年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自分の合ったペースで自分らしく家庭的な生活を安心して送っていただけるように、温かい心で寄り添いながら支援に努めさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小規模多機能型居宅介護施設が併設され、食堂を兼ねた居間や玄関ホールは陽光が差して明るい空間となっている。ウッドデッキが付いた中庭があり、ひなたぼっこやオープンカフェなど多彩に利用されている。「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」生活の支援をすることを事業所の理念としており、職員は入居者一人ひとりのペースに合わせ、その人なりにできることを共に行い、暮らしが楽しくなるよう支援している。運営推進会議等で親しくなった地域の人々が事業所の夏祭りを手伝ってくれたり、近くの児童館の子どもたちがお囃子を披露したりするなど夏祭りの参加者も増えており、地域との交流が盛んで年々発展している。夏祭りには学生が参加してくれ、歌や踊り、将棋、工作など普段から来所するボランティアも多彩である。職員は、事業所がオープンしたところからの人が多く、職員間で問題点を提起しやすい雰囲気があり、介護サービスや設備の改善等につながっている。また、入居者が行きたい所へは可能な限り一緒に行くなど明るく前向きで積極的な職員が多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を知りご自分のペースで一緒に楽しみながら安心した生活を送れるよう寄り添いながら支援に努めるように心掛けている。	事業所がオープンして4年になるが、開所当時の職員が多く、「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」の理念がしっかり浸透している様子がうかがえる。食事の準備も、手伝ってもらえる人、できなくてもそばにいて口で料理を手伝う人など、入居者一人ひとりのペースに合わせ、その人なりにできることを共に行い、職員自身も楽しみながら日々の暮らしが豊かになるような介護に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と近所を散歩したり、スーパーに買い物に出掛け顔見知りの方と話をされている。また、地域のボランティアの方々を積極的に受け入れ、夏祭りなどに参加していただいている。	事業所の夏祭りは、スタッフを含めた参加者が100人を越える盛大なものとなっている。運営推進会議等で親しくなった地域の人が手伝ってくれており、近くの児童館の子どもたちがお囃子を披露したり、地域の人が配布したチケットを持参して参加してくれたりするなど、夏祭りなどを通じて地域との交流は年々盛んになっている。また、夏祭りには学生がボランティアとして参加してくれ、歌や踊り、将棋、工作などで入居者を楽しませてくれるボランティアも多彩である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアや敬老会の方々に来ていただき交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設当初からの委員の方がおられ意見や質問など気軽に話し合いができていたため、サービスの向上に繋がっている。	運営推進会議は、家族代表、地域からオープン当時の区長と現区長、民生委員、行政関係者では市職員や地域包括支援センター職員が会議メンバーとなっている。地域代表者から夏祭りの提案・手伝いをしてくれたり、事業所の知名度向上に送迎車に名前を入れる提案などが実現した事例もあるなど、活発な議論が交わされサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、困難事例の相談など積極的に窓口に出向き協力関係を築き連携を取っている。	市の担当者とは、運営推進会議で情報の提供や意見交換を行っており、成年後見制度の活用や生活保護など入居者の生活に関する困難事例の相談など、常に連絡を取り合い連携に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒のリスクはあるが職員と話し合いながら身体拘束をしないケアに努めている。また、ご家族にも転倒のリスクについて話し合いの場を設けるように取り組んでいる。	立位保持が困難で転倒のリスクのある入居者について、家族と話し合い、ベットをやめて床に布団を敷いて対応するようしたり、外に出たがる入居者に対しては玄関の施錠はせずに見守りで対応するなど、身体拘束をしないケアに努めている。言葉による抑制がないよう常に話し合い実践に努めており、つい言葉にて出てしまった場合などでも管理者や気付いた職員がすぐに注意するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の勉強会や外部の研修会に積極的に参加するように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し、必要に応じて地域包括支援センターに相談し連携をとるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をし、その都度質問や不安などについては話し合いながらご協力して頂けるよう努めていくと伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話などで意見を聞くように努めている。	家族の要望や意見は、面会時や電話などの際に聞くようにしており、入居者の持病や介護サービスなどについて相談を受けることがある。家族には、請求書送付時に入居者の様子を書いたお便りを添付しているが、家族からお便りに印刷されている写真がほしいと言われ写真を送ることもある。入居者からは食べたい物、紅葉狩りなど行きたいところなどの要望があり、食事や外出の際に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議で施設長にも同席して頂き職員から直接意見を聞けるよう努めている。	定例会議は月一回開催され、勤務の都合で参加できない職員には事前に意見を聞き、後日回覧を見てもらうなどの対応をしている。定例会議では行事に関する話し合いや、入居者一人ひとりの状況説明、職員からの提案や要望などが話し合われている。お風呂に手摺りを追加設置したり、中庭にウッドデッキを設けたり、面会者用に玄関にイスとテーブルを置くなど職員意見を反映してサービスの向上につなげている事例が数多く見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の定例会議に同席して頂き職員の要望等聞いて頂いている。必要に応じて面談をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修に参加できるよう機会を用意している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業所間の研修会や交流会に参加して情報交換に努めサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人にお会いし不安や要望を聞き取り安心して入所できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族にお会いし不安や要望等聞き取り安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の話しを聞き必要なサービスを見極めていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を受ける場ではなく、穏やかに生き生きと暮らす場であるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の状態に変わりがある場合には早めに連絡を取るようになっている。また、ご家族様が来所されたときにはできるだけコミュニケーションを取るよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来所していただけるような雰囲気作りに努めている。	併設の小規模多機能施設を利用した友人が立ち寄り、家族や親族などが面会に来ている。スーパーに買い物に行った際に知人と会い話し込むこともある。面会者には、居室にイスとテーブルを用意し、玄関ホールにも常にイスとテーブルを設けてあるなど、いつでも立ち寄って話しやすいように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入るなど工夫をしコミュニケーションが取れるように努めている。。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方や他施設に行かれた方の様子を見に行き必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のできる事分かる事に着目し、希望や意向を把握し困難な場合は話し合いを持つよう努めている。	希望や意向を本人から話すことはあまりないが、入浴時の1対1になる時に家族の昔話を聞いたり、普段の何気ない会話の中から入居者の意向をくみ取るようになっている。外出や外食の要望などが多いが、趣味や特技を聞けることもある。また、決まった時間にテレビが見たくて何となくそわそわしてくる人、排便に失敗し隠そうとしている人など、常日頃の態度・行動や顔の表情からも思いや意向をくみ取りさりげなく対応するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを見返したりご家族様とコミュニケーションを取りながら把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の特徴や変化を記録し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議や申し送り等で課題とケアについて話し合い、病院受診に同席しご家族様とご本人様の意向を聞いて作成するよう努めている。	定例会議で担当職員が中心となって一人ひとりのケアカンファレンスを行い、病院受診の際に同席して主治医の意見を聞き、家族が面会に来た時などに家族・本人の意向を聞いている。これらの意見を参考に、計画作成担当者が介護計画を作成している。介護計画に沿った支援により、車椅子から歩行器で歩けるようになったり、オムツからリハビリパンツになり排泄の自立が進んだなどの事例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートにその都度記入し職員間で情報を共有し介護計画の実践見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度話し合いを持ち可能なサービスを実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	手を差し伸べる介護だけではなく見守る介護で安全で安心できる暮らしができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医を継続し、入居後初めての受診には同席し主治医と連携を取りやすくしている。また基本的にはご家族に受診はお願いしているが、必要に応じて施設で対応したり、同席させていただいている。	入居前のかかりつけ医を継続し家族の通院介助を原則としているが、家族の都合により、職員が代わる事もある。病状によっては管理者が同席し、病状の説明など情報のやりとりをすることもある。同席できない場合は、メモを渡している。家族のみの受診の時は家族から受診結果などの報告を受け、職員間で情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度ご家族や病院の相談員などの関係者に連絡を取り早期対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はもちろん退院時後も医療機関の看護師や相談員・主治医と連絡を取り合い連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療的な処置が必要になった場合など終末期の対応は難しいことを説明している。ご家族の希望に沿い可能な限り事業所でできる限りの支援に取り組んでいきたい。	入居時に、重度化し医療的な処置が必要となった場合など、事業所では終末期の対応は困難であると家族に説明している。現在まで看取りの実績はないが、可能な限り事業所で見たいという家族の希望に応じて、医療的措置が必要になり入院するぎりぎりまで支援をした事例もある。事業所としては、家族の要望に応じて、今後ともできる限りの支援に取り組んでいきたいとしている。	今後も家族から可能な限り施設で見たいとの要望が出てくると思われる。家族の要望に応えることが出来るよう、さらに医療連携、職員の教育など体制の整備に努めてほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急の講習会に参加している。事業所内研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方々に協力していただき消防訓練を定期的に昼夜想定で行っている。近隣の方々にも協力をしていただけるよう了解を頂いているので実際に参加していただく予定になっている。	年2回、昼・夜の想定で消防署の指導の下、消防訓練をおこなっている。避難通路も整理整頓されており、飲料水、食料品など備蓄品も徐々に充実してきている。冬季の停電対策も兼ねて、入居時に一人一個の湯たんぽを用意してもらい、日ごろも活用している。居室のタンスは耐震対策用金具で固定されているなど安全に配慮している。	近隣住民に避難訓練に参加してもらい避難した入居者の見守りをお願いするなど、災害時の近隣住民の協力体制の向上に努め、災害対応に不安を抱く職員のためにも今後とも臨場感のある訓練を実施してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いにならないよう職員間でも注意しながら対応している。プライバシーに気を付ける言葉かけに努めている。	トイレ誘導や口腔ケアへの声掛けなど、さりげなく行い、決して命令口調にならない様に気をつけている。難聴者への声掛けも耳元で静かに伝えるなど、敬意を払っている様子がうかがえる。職員には施設長や管理者が接遇の研修を行ったり、現場で指導するなどして、入居者一人ひとりの人格を常に尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が伝えやすい雰囲気作りを心掛けています。その都度ご本人様に選択していただくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様がご自分のペースで過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装をご家族様にもご協力していただいている。出掛ける時などにも服装をご本人様に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にご利用者様の希望を入れたり、食材購入と一緒にいった時など相談して購入している。食事作りや後片付けにも積極的に参加して下さる。	昼食のおかずのうち週5日は近所の人に委託しているが、これ以外の朝・夕の食事などは職員が作っており、一週間分の献立を職員が考え、食材は入居者と共に近くのスーパーに行き購入している。入居者は野菜を洗ったり、食器の後片付けなど可能な形で参加している。ごはん茶碗・箸などは各自入居前のものを使用している。事業所に来て寿司を握ってくれる出張のにぎり鮎を職員が企画するなど、入居者にはお楽しみの食事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人食事量・水分量を記録して体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に合った口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄に努めている。立位が困難な方には二人介助にて事故のないよう支援している。	トイレ使用時に不安がる弱視入居者に対して、便座や手すりの位置を繰り返し確認する支援を行い、自立排泄につなげている。また、入居時には車椅子で紙おむつであったが、歩行器による歩行介助等により歩行可能となり、昼・夜ともリハビリパンツに移行した例もある。夜間は定時誘導などで無理に起こしたりせず、トイレ使用時の物音で確認するなど見守りで支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事・運動を心掛け促すよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の有る方には毎日声をかけタイミングで入浴できるよう対応している。声掛けにも人・時間・場所を変えて促している。	週3回午後の入浴を基本としているが、入浴を拒否する入居者には時間や人を変えるなどで対応している。個人ごとに好みの温度に設定し、浴槽内にイスを置くなど、安心して入浴を楽しむ配慮がされている。脱衣室は床暖房が施され、職員の助言により、手すりも浴室に向かう動線上にうまく配置されている。重度化した入居者は、併設の小規模多機能型介護施設の機械浴設備を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中無理強いのない活動を促し、太陽の光を浴びよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時には、申し送りノートに記入し口頭で朝夕の申し送り時に送るようにしている。毎月の定例会議で報告・確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事を行い外出・外食にも出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や近所のスーパーに買い物に出かけている。季節ごとの外出(花見・紅葉狩り・リンゴ狩り)近所の神社へ初詣に行き神社の方にも手伝っていただき縄ぐりもしている。	施設周辺を散歩したり、食材の買い物に近くのスーパーに出かけることが日常的な外出である。季節ごとの外出はとて多く、花見や紅葉狩りのほか、地域の人の紹介でサツキ展の鑑賞にも出かけている。年末は福引に出かけ、楽しい時間を過ごしている。外食も多く、入居者に入居前に行っていたり家族と行く飲食店を教えてもらうなど、入居者と相談しながら行先を決めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金の管理ができる方がいないため職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	対象の方がいられない。知人が面会に来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度・温度に気を付けている。季節感が感じられる飾りをしている。(正月・ひな人形・節句・七夕・お盆・十五夜・クリスマス)	窓ガラスを通して入る陽光が、玄関を暖かく和らいだ雰囲気にしており、玄関ホールに置かれたイスに一人座り、のんびり過ごす入居者もいる。玄関奥には季節により雛壇やクリスマスツリーを置くことがあり、入居者と共に飾りつけを行い、季節を感じる手助けをしている。全面ウッドデッキの中庭は、春先はツバメが巣をつくり、おやつを食べたり、軽い散歩をしたり、オープンカフェに利用したりと、日々の生活に変化を与える場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席を変えたり、居室で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を飾ったり、使い慣れたものを使用していただけよう努めている。	居室はそれぞれ花の名前がつけられており、入り口には室名の花の写真や折り紙で飾られたプレートが取り付けられている。室内は、カーテンと壁が同じ色で、各部屋ごとにイエロー、ピンク、グリーンの種類がある。ベッドのほか使い慣れた寝具やタンスが持ち込まれ、シンプルではあるが、各自思い出の品物や家族の写真などで居心地の良い部屋をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事を活かし見守っていくように努めている。安全な環境作りにも心掛けている。		